

回復への道： ウェルビーイングとレジリエンス

2020年9月

公園・レクリエーション関係者、計画立案者、公衆衛生関係者のための
新型コロナウイルス感染症パンデミック後の都市づくりガイドブック

目次

はじめに	3
主要原則	4
1. 重要な健康指標としての公園	5
2. ウェルビーイング指標ー “ヘルシー・シティ”	6
3. 持続可能な開発目標	7
4. パートナースhipを組むこと	8
5. COVID-19により変化したコミュニティの公園利用と認識を理解すること	9
6. 市民の健康を第一に考えて都市をデザインする	10
市民の健康を第一に考えて都市をデザインする(続き)	11
7. よりよい未来を築くためにーより良い復興を目指す	12
オペレーショナル・エクセレンスー NRPA作成	13
世界の回復計画	14

日本語版注記

- 1) 本日本語版はWorld Urban Parksの許可を得て作成しています。
- 2) 用語について
 - ・ウェルビーイング: 「今より状態や状況がよくなること」。人の身体的、精神的、社会的な状態が改善されることにも、社会全体の状況がよくなることにも使われる。
 - ・レジリエンス、レジリエント: 「災害や惨事など想定外の困難な状況にしなやかに対応する回復力」のこと。
 - ・フィジカル (ソーシャル) ・ディスタンス: 安全な距離。

※誤訳・誤植等に気付かれた方は、World Urban Parksジャパン事務局までお知らせください。

はじめに

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックは世界を一変させ、これからの公園・レクリエーションサービスのあり方を変えました。経済の再開に向けて、多くの国と都市がロックダウンと外出禁止令を解除する準備をしている中、都市緑地への投資がこれまで以上に重要となっています。この世界的危機により、都市住民の精神的、身体的、社会的な状態を改善するためには、公園がどれほど不可欠な存在であるかが明らかとなりました。一方で、COVID-19により、特定の集団やコミュニティが過大な脆弱性がかかえていることが露わになりました。身近に公園緑地が少なく、健康が得られにくい環境にあるコミュニティがいまだに存在しています。たとえば、高齢者やある特定の人種、歴史的に差別を受けているコミュニティなどです。私たちはこれを機会にして、世界中の都市で長期的な変化をもたらしていかなければなりません。

World Urban Parksの「回復への道:ウェルビーイングとレジリエンス」は、最新の国際的な知見、コミュニティの認識等について集めたガイドブックであり、今後も更新されていくものです。このガイドブックの目的は、パーク・エージェンシー (公園機関)、コミュニティ団体、個人、都市、パーク・コンサーバンシー (非営利の公園管理団体) を結びつけて、COVID-19のパンデミックから回復し、社会全体の状況を改善し、公平性、社会正義、社会変化に対応できるしなやかな社会の実現に向けた道筋を示すことです。このガイドブックでは、“ポスト・コロナ”の回復期が近づく中で、都市が考え、取り入れるべき主要原則とパートナーシップについてまとめています。公園・レクリエーション分野のための実践的ガイドブックである“回復の枠組みへの道” (Path to Recovery Framework:全米レクリエーション・公園協会 (NRPA)作成) を取り入れ作成されています。

さらに、このガイドブックは、特に緑地に関して“市民の健康を第一に考えて設計すること”について考える機会を提供し、都市を設計し緑地デザインに取り組む際に、“健康を考慮して設計すること”を中心に置いた新しい枠組みを考え、取り入れることを勧めています。



めったに起らないが、実際に起こると破滅的な被害をもたらす出来事について分からない点や取り組むべき点が多くあることを我々は認識しています。それらは、気候変動のプラスとマイナスの影響から公平性や、生態系が高い健全性を持っていれば (健康な自然/公園であれば)、人獣共通感染症が発生し、感染拡大する可能性が下がるという関係性を理解することにまで及んでいます。しかし、こうした出来事が起こるからこそ次世代のために困難にしなやかに対応できる明るい未来を築いていく行動を起こす必要があります。

我々は、地球環境と公衆衛生の危機のまっただ中にいます。今こそ、公衆衛生や自然保護、気候変動への適応において相乗効果を生み出す時です。本当に状況を変えたいのであれば、長期的な都市政策と都市計画において、社会的な状況を改善し、公平性、自然保護、気候変動への適応、健康を優先させるべきです。

公衆衛生に不可欠な指標を守ること

公園・レクリエーションの専門家、公園局、パーク・コンサーバンシーは、管理運営を再開し、スペースを開放する際に、“ポスト・コロナ”の公園・緑地がどのようなものかを考えつつ、公衆衛生と安全を守る、綿密かつ整然としたアプローチを取り入れなければなりません。

右に、世界保健機関(以降WHOと記す)の主要な公衆衛生指標(Core Public Health indicators)のリストを示します。この指標は、COVID-19のパンデミックの影響を受けたコミュニティが、段階的に経済を再開させる取り組みに移行を始める際に満たさなければならないものです。また、最も安全な段階的再開計画を作成するのに役立つように、組み込む必要のある対策について十分に情報共有をし、理解するために、常にあなたのいる地方自治体と公衆衛生のガイドラインを参照してください。

WHOによると、COVID-19の感染拡大防止措置を解除する前に、コミュニティは右の6つの指標を満たさなければなりません。

公園訪問者の行動ガイドライン

公園緑地で訪問者の行動様式に関する一般的なガイドラインを以下に示します。体調がすぐれない場合、症状がある場合、コロナ陽性者と接触したことがある場合は、公園や緑道を利用しないでください。

1. **公衆衛生ガイドラインを守る:**地元の公衆衛生ガイドラインに従い、国または地域のガイドラインによる安全な距離(通常6ftもしくは2m)をとることが常に重要である。
2. **マスクまたはフェイスマスクを着用する。**
3. **地元でレクリエーションをする:**自宅から歩いて行ける範囲内でレクリエーションを行う(可能な場合、アクセスできる場合)。
4. **よい衛生習慣を実践する:**外出した際には手指消毒剤を使い、頻繁に手を洗う。
5. **少人数で行動する:**家族とレクリエーションを行うようにし、多人数でのレクリエーションを行わない。
6. **ゴミは持ち帰る:**訪れた公園緑地に配慮し、自分が及ぼす影響に気を配る。ゴミは家に持ち帰り、適切な方法で処理する。
7. **犬のリードを外さない。**



主要原則

回復計画をつくる際には、以下の主要原則に基づいて作成しなければなりません:公衆衛生指標を満たすこと、重要な健康指標として公園を捉えること、持続可能な開発目標を組み入れること、パートナーシップを築くこと、市民の健康を第一に考えて設計すること。その目的は、確実に最高の社会的、環境的、経済的成果を出し、そして誰もが公園にアクセスできる“Parks for All”の考え方を実現することです。COVID-19への対応により、自然の回復が進み、気候変動への適応がサポートされるだけでなく、自然や緑地が不足しているコミュニティに計画的にそれらを組み入れ、すべての人の健康と生活の向上を促進するしなやかで強い世界をつくることが重要です。

多くの都市は、すべての人のために、より公平性があり、住みやすく、変化にしなやかに対応できるヘルシー・シティ(健全な都市、健康的な都市)をつくる政策と枠組みにこれらの主要原則を組み込むことができます。



1. 重要な健康指標としての公園

COVID-19のパンデミックが起こる前は、多くの都市は、肥満、糖尿病、高いストレス、不安、うつ、社会的孤立、座りっぱなしのライフスタイルといった世界的な健康危機に直面していました。現在、最も切迫した世界の健康問題において、この危機と回復期に不可欠なインフラとサービスを提供する公園の意義に改めて関心が集まっています。

公園は、健康を取り戻し、身体活動を行い、社会環境を向上させるための場として機能し、重要な役割を果たしていることが、コロナ禍では明らかになりました。公園が公衆衛生に重要で、不可欠なインフラであるという考え方はますます認められ、支持されています。人と地球が健康・健全でよい関係であるために、これまで以上に緑地が必要であることが浮かび上がりました。多くの都市で、公園は、都市住民が容易にアクセスでき、楽しめる、唯一の貴重な自然です。アメリカのNRPAの調査によると、“成人の83%が、COVID-19のパンデミック時に地元の公園、緑道、オープンスペースの利用が精神的および身体的な向上に不可欠であった”と答えています。しかし、人々は平等にこのような自然資源を享受できたわけではありません。都市環境は、建築・社会環境など多くのものを介して健康に影響を及ぼします。都市デザインがよくないと人々の健康とよりよい暮らしに悪影響を及ぼし、ストレスと不安を増大するという認識が高まりつつあります。健康と生活を向上させる都市空間をデザインする唯一の方法は、公園が持つ力と及ぼす影響を理解することなのです。

公園がもたらす効果

緑の中での運動(グリーン・エクササイズ): 公園は、身体活動を行う機会を提供し、深刻な健康問題を軽減または予防することができます。

寿命を延ばす: 日本のある研究によると、緑地の近くに住む高齢者の方が、寿命が長い傾向がある。

ストレスの軽減と精神的健康の向上: 毎日20分から30分、都市の自然とふれあうことが、ストレスから回復するのに最も効率の良い過ごし方である。

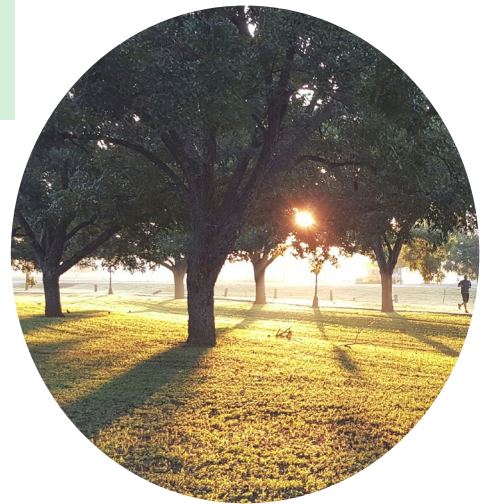
弱者の生活の質の向上: 身近に都市の緑地があることが健康にもたらす効果は、高齢者のウェルネスと生活の質に重要な役割を果たす。高齢者は、以下の3つの点で屋外環境に関わることから効果を得ることができる。すなわち、屋外での身体活動に参加すること、精神的健康と認知機能の向上、人との社会的交流である(Nature Sacred)。

大気汚染の低減: ハーバード大学の最近のある研究によると、COVID-19は呼吸器系疾患であるので、公害があるとCOVID-19による死亡率を高める。大気汚染は肺に影響を及ぼすことから、より多くの緑地の必要性が重視される。自然地域がより多くあれば、大気汚染が減り、感染リスクを低く抑えることができる。

社会的なつながり: 公園があることで、人々は社会的交流が可能となり、孤独を避けることができる。

快適な気候をもたらす: グリーンインフラとブルーインフラ(海、川、湖、池、水路などの水に関するインフラ)は、日陰を提供し、気温を下げることで熱中症を減らすことができる。

公園は健康維持の機会が得にくい社会環境の改善に役立つ: 資源の乏しいコミュニティに投資することは、都市のストレス要因の軽減と生活の向上に役立つ。公園や緑地にアクセスできれば、最も弱い立場の人々、すなわち若者、高齢者、有色人種のコミュニティ、低所得者層は、最も劇的にプラスの影響が得られる。



コロナ禍で公園・レクリエーションが果たす重要な役割を詳しく述べたNRPAのデータと定義についてはこちらをご覧ください。



2. ウェルビーイング指標―“ヘルシー・シティ”

生活の向上や社会環境の向上に重点を置いた都市デザインは、多角的なプロセスを経て行われますが、その中で緑地に投資することは欠かせません。WHOによる“ヘルシー・シティ”の定義は、“健康、レクリエーション、生活の向上、安全、社会的交流、移動のしやすさ、誇り、文化的アイデンティティを支え、すべての市民のニーズを受け入れることのできる開発された都市環境”を提供する都市です。このため、都市は、ウェルビーイング指標がどのようにヘルシー・シティづくりに貢献するかを考えなければなりません。

都市が公園は重要なグリーンインフラであるというコンセプトを持ち、公園をより大きな持続可能な都市システム(例 路上や公園を通過する際に自転車やウォーキングなど人力で移動するアクティブ・トランスポートーション)の一部と見なし、ウェルビーイング指標を重視することを選択すれば、積極的に人とコミュニティが身体的・精神的な向上に貢献できます。緑地が豊かで多様性があり、管理が行き届いていることは、しなやかで強いヘルシー・シティの重要な特徴です。

ウェルビーイングをレジリエンスと結びつけることー都市緑地は、気候変動に対応するにあたって非常に重要です。公園は、都市の冷却、生物多様性、雨水の管理などを支えるグリーンインフラです。公園はさらに、コミュニティが集まる場所を提供することで、社会的なレジリエンスを生むのにも一役買っています。

世界で実施されているウェルビーイング指標とヘルシー・シティ戦略の一部を以下に示す。

CECDのより良い暮らし指標ー この指標は、CECDが重要であると認定した物質的生活の満足度や生活の質など11の分野に基づきウェルビーイングを国同士で比較するものである。

ウェルビーイング・イン・ネーション(WIN)ネットワークー 人々が生き生きと過ごすことができるように社会的要因と個人的要因の両方を含めた、ウェルビーイングに重要な条件がまとめられている。

バンクーバー市のヘルシー・シティ戦略ー カナダ、バンクーバー市は、“ヘルシー・シティ戦略”を開始した。この戦略の目標の一つは、すべての住民が公園から400m圏内に住めるようにすることである。また、戦略はバンクーバー市の面積の最低でも18%が緑陰で覆われることを求めている。

アクティブ・シティ: 健康のためのデザインートロント市: これは、開発された都市環境に注目し、すべてのトロント市民のためにヘルシー・プレイスをつくるものである。ヘルシー・プレイスは生活の中に身体を動かす活動を取り入れるのを促す。この報告書は、日常生活の中で身体活動を習慣とする人が増えるように近隣住区、街路、建築物を変更する際に指導を行うためのデザイン原則をまとめている。

インクルーシブ・ヘルシー・プレイス報告書ーゲール研究所: インクルーシブ・ヘルシー・プレイス報告書では、健康の公平性を支える公共空間を評価し、つくるためのツールを紹介している。

ヘルシー・リバブル・シティズ・グループ: RMIT大学ー都市研究センター: “健康と都市計画の関係を深く理解するために革新的で学際的な共同研究を行い、健康で、公平性のある、持続可能な都市の計画と建設に関する方針と方法を提供し、向上させること”に焦点を当てている。

都市における身体活動の促進を目指してー WHO欧州地域事務所は、パブリックスペースの質を高めることにより都市における身体活動を促進させるための戦略について説明している。

都市デザインおよびメンタルヘルス・センターー 都市デザインによりメンタルヘルスを向上させる方法に関する情報源である。

都市・地域計画に健康を取り入れる: 資料集 (13ページ): これにより、公衆衛生や都市・地域計画分野の意思決定者(計画立案者、市の行政担当者、医療従事者など)が、人と環境の健康や健全性に焦点を当てて計画や建設がなされた都市を発展させることを目的としている(国連ハビタットとWHOの共同報告書)。



3. 持続可能な開発目標

COVID-19からの回復への道を歩む時に重要なのは、政府と公園専門家が国連の持続可能な開発目標(SDGs)をどのようにこの枠組みの中に取り込むかを考えることです。

SDGsは、貧困、不平等、気候変動、環境悪化、平和、正義に関する問題など、我々が直面する世界の問題を扱います。17の目標は、互いに関係しており、達成期限は2030年です。より環境にやさしく健康な都市をつくる取り組みは、常にSDGsに沿ったものでなければなりません。例えば、都市の計画戦略と緑地戦略は、貧困をなくすことに大いに貢献することができます[1]。同時に、都市と人間の居住地を包摂的で安全かつ柔軟に対応できるようにし[11]、気候変動に取り組むために対策を講じ[13]、陸上の生物を保護[15]しています。

すべての人に、公平で、住みやすく、レジリエントで、健康な都市をつくるために、都市には政策と枠組みに持続可能な開発目標を含めることが可能である。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4. パートナースhipを組むこと

ポスト・コロナの時期には、公園専門家は多くの施設を再開するかどうか判断を行い、公園を支え続けますが、重要なことは、公園部署だけで回復計画を作成しようとしませんことです。“多様な部署、組織、リーダーと協力して作業を行い、回復計画を共有することが重要です。これらの主要な利害関係者は、戦略的思考や知識、資源、多様な視点をもらしてくれるだろうし、回復計画を作成するのに資源と能力を効果的に利用でき、計画が十分に吟味されるでしょう。そして全ての公衆衛生の指針に沿うものになるでしょう。協力して取り組むことで、同じ考えを持つ組織同士が、計画、指針、メッセージを共有することができます。” [\(NRPAのパートナーシップのページ\)](#)

地域の健康と社会環境に関する問題と、現在および将来公園が果たす役割について、より市民の理解を高めることが必要です。この機会を利用して、公園を、重要な公衆衛生の一部として位置づけるとともに、投資を増やし続ける必要がある都市インフラとして位置づけます。組織や機関の枠を超えた地域のパートナーシップを構築すれば、総合的に公園への投資や、維持管理、プログラム作成、革新的なデザインがなされることが定着する環境がつくられます。

公平な資金調達戦略と方法を推奨するー[公平な都市公園系統づくりに投資する: 新たな資金調達戦略と方法](#)。人々の生活の向上と満足を都市政策の中心に置くことが不可欠です。



組織横断的にパートナーシップを組む	ビジネス	非営利団体
都市計画家 ランドスケープ・アーキテクト 自然保護活動家 公衆衛生専門家 水道局 ヘルスケア 教育	コンサルタント 商品開発メーカー（遊具など） アセットマネジメント 地元企業	プログラム&サービスの提供



コミュニティ	政府
公園・レクリエーション局 コミュニティの健康づくりに携わる人 コミュニティ協議会 先住民のコミュニティ	健康やウェルビーイング、持続的開発の全体的な枠組みを採用するにあたっての強い政治的リーダーシップと政治的意思

5. COVID-19により変化したコミュニティの公園利用と認識を理解すること

世界中の多くの都市では、COVID-19によりもたらされた不安や悲しみ、社会的孤立、ストレスから逃れられる貴重な場所として都市公園に都市住民が集まりました。現在、重要なグリーンインフラ、公衆衛生のためのインフラとして、公園の重要性が再認識されました。しかし、COVID-19がどの程度、我々と都市緑地との関係、さらには都市緑地についての認識を変えたのかを知ることは難しいです。このコロナ禍においては、公園や都市緑地が、人々のメンタルヘルスに果たす役割が特に重要視されました。人々は超ローカルに考え、公園を訪れる際は徒歩圏内の公園に行くことを検討するよう促されました。多くの場合、人々は、地元で新しい緑地を発見し、様々な緑地の価値を再確認したかもしれません。地方自治体は、質の高い、アクセスしやすい緑地を支え、投資を継続するという新たな課題を抱えることとなりました。

コミュニティは、個人で身体活動を行い、バードウォッチングをし、瞑想し、森林浴を行い、ランニングするなどクリエイティブな方法で公園を利用しています。さらに、屋外空間の方が屋内空間よりもCOVID-19に感染する可能性が少なくなります。それでも、公園でレクリエーションを行う際は、安全な距離“フィジカル・ディスタンス”を取らなければなりません。都市公園を利用する際は、これからも安全な距離は重要な役割を果たし続けるでしょう。また、多人数で集まらない、公園施設に触れないように、という注意がありました。コロナ禍で多くの子供の遊び場が閉鎖されたので、子供の公園と遊び場の利用方法も変わらざるを得ませんでした。

COVID-19により、多くの場合、質の高い都市緑地は分布に偏りがあり、そういった都市緑地に誰もが安全にアクセスできないことも明らかになりました。ブルッキング研究所(Brookings Institution)の研究者らは、アメリカでは、メトロポリタンエリアのレベルでは、“公園へのアクセスが悪い地域は、貧困率が高い傾向がある”ことを明らかにしました。さらに、都市公園は面積が小さいもののほうが多く、人口密度がより高いエリアにあることが多く、公園の混雑を生み、地元の緑地で安全な距離を保つのがさらに難しくなります。

自然へのアクセスが限られていることは、コロナウイルスにより既存の社会格差が拡大している要因の一つです。このウイルスの流行により、公園へのアクセスを増やすだけでなく、公園空間の維持管理に投資し続けなければならないことが強調されました。さらに、都市公園が都市のグリーンインフラとして重要であること、人間がこのような空間を必要としていることについて理解が深まりました。



米国における
コロナ禍で変化した
コミュニティの公園利用と
その認識について、
さらに知りたい方は、
[NRPA公園スナップショット](#)
調査データを参照
してください。

例

米国では1億9千万人以上が、COVID-19のパンデミックの発生から3ヶ月間に最低1回は公園、緑地またはその他の公共空間を訪れた。



例

[COVID-19が公共空間に及ぼした影響: 新たな問題に関するレビュー](#) “本論文の目的は、COVID-19と都市デザインの接点で生じる新しい問題を明確にすることである。COVID-19の危機は、我々とパブリックスペースとの関係を根本から変える可能性がある。コロナ後の世界の都市計画と都市デザインについて知るためには、これから数ヶ月そして数年後に、これらの変化を検討し、評価することが重要であるだろう。”

- より小さな緑地に対する需要があるかどうかを検討し、近隣の公園を重視する。
- 個人的で自分と向き合うことができる空間を増やす。
- 緑地のネットワークを分散させることが重要である。
- 遊休地や建物の屋上など使われていないスペースの可能性を探る。

6. 市民の健康を第一に考えて都市をデザインする

将来に目を向けたとき、COVID-19は、新たな方法で計画に健康の視点を取り入れ、より公平で、持続可能であり、より健康な都市をつくる機会となりました。私たちは、皆さんに、創造的に考え、今ある習慣を見直し、新たなアイデアを生むために、この機会を活かしていただきたいと思います。都市は、すべての人の生活の向上を保証するために、多様な人々のニーズと行動様式を受け入れることができるように設計されなければなりません。都市政策は、“人々を多様な社会的現実

公園の公平な利用に取り組むこと

COVID-19により、公園・レクリエーションの専門家、都市計画者、公衆衛生局、政府機関などが、公園利用の公平性の視点で、既存の公園の政策やアクセス、デザインを再考する貴重な機会が得られた。以下の質問を考えてもらいたい。どうすれば、公園が、コミュニティに役立ち、コミュニティの健康を向上させ、環境を改善し、社会の向上に役立つことができるのか。どうすれば、組織は、質の高い公園や緑地が不足しているコミュニティにおいて、質の高い公園にアクセスすることや緑地を確保することを最優先事項にすることができるのか。

公平性: すべてのコミュニティが健康でよりよい生活を手に入れられるようにサポートするためには、すべての人が都市緑地にアクセスできることが重要である。どの人も、質の高い都市緑地への平等なアクセスと機会がなければならない。

心身の回復を念頭に置いてデザインすること

回復と休息ができ、落ち着く空間をデザインする。“回復のための環境は、視覚によい刺激になるものでなければならない;うまくデザインされた庭園や公園には、微妙な違いのある複雑さがあり、その中で体験する周囲の環境についての情報を入手できる機会がなければならない。人の動きと心をやさしくサポートしてくれる環境が、ストレス状態の身体をリラックス状態に変える可能性が高い。回復のための緑地には、視野の中でゆっくりと動く要素や、楽しい記憶に結びついた感覚的によい刺激を与えるものがなければならない。” (Nature Sacredより) 研究およびデザインに関するガイドライン+科学的原理:セラピューティックガーデン

多様な世代のための空間を設計すること

子供の遊ぶ権利:子供にとって“遊び”と自然の中で遊ぶことが重要であることを考慮して、子供の遊びを促す、柔軟性のある空間をデザインする。
デザインの際に推奨されること:調査を行い、子供や若者と共同でデザインする;柔軟性があり、チャレンジングな遊びの機会をつくる;場所の歴史と特性を捉え、自然の特徴と緑を最大限に利用する。

コミュニティとパートナーを組むこと

空間づくり・デザインのプロセスに地元コミュニティを巻き込むーコミュニティ主導型のプロジェクトを実施する。

保健予防策としてのデザイン

都市住民の高まるストレスと不安を改善または予防する機会(すなわち森林浴)としてのこの取り組みは活発になっている。公衆衛生の成果を裏付ける公園のプログラムとプロジェクトに投資する。

感染を予防する安全な距離を考慮に入れてデザインすること

課題の一つは、有名で人気のある公園はデザインの仕方で込み合うことが多いことである。緑道の幅員、利用者

利用法と利用者に多様性があることを考慮してデザインすること

受動的活動と能動的活動を可能にする。次の資料を検討すること。
チャレンジラボ・ソリューションズ:申し分のない公園づくりのための指標、公園の評価への体系的なアプローチ
ヘルシーパークス・ヘルシーピープル・パークス・ビクトリア

自然と人のためのデザイン

自然空間を保護し、つなぎ、再生して、健全な自然のシステムを保全し、人獣共通感染症の発生リスクを減少させ、人が自然を体験し、学び、大切にする機会を人々に提供する。

市民の健康を第一に考えて都市をデザインする(続き)

緑地の多様性とサイズに関わらずすべてを重視すること

地元のパークレット(歩道に隣接した道路の一部を転用した公共スペース)、小さな庭の空間、地元の近隣公園に投資する。都市の小さなポケット・ガーデンから広大なデスティネーション・パーク(観光目的地となる公園)まで。超ローカルに考え、有意義な空間をつくる。歩道や公共空間を緑化するなど小規模な介入でできるときは、新しい公園に投資すれば、自然をコミュニティに取り込むことができる。

超ローカルに考えること

自宅から徒歩圏内に自然とつながる機会をつくる;都市全体に公園、緑地、緑道を一体的に配置する;単に目的地としての空間とするのではなく、都市全体でこのような空間を相互につなぎあわせる。

すべての人がアクセスできる、インクルーシブな公園をデザインすること

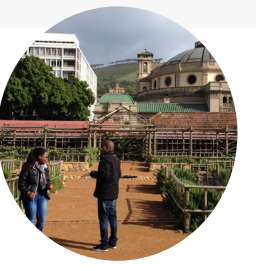
すべての人のためにインクルーシブなデザインを取り入れることが重要であるー“年齢や障がい、置かれた環境に関係なく、あらゆる人が公共空間にアクセスできるインクルーシブなデザイン”を取り入れること。
以下の参考資料を考慮すること:センサリー・トラスト(英国)、ユニバーサル・デザイン:公園とプラザ(ASLA:米国ランドスケープアーキテクト協会)

公園へのモビリティとアクセシビリティに重点を置くこと

公園へ続く道は、すべての人にとって安全であり、利用しやすいものでなければならない。公園へのアクセスのしやすさを大きく高めるために、公園入口までの主要ルートの他にウォーキングやサイクリング用のスペースを新たに設置する。“必要に応じて、よりウォーキングやサイクリング、ランニングがしやすいように、ダイナミックにバランスがとれた”道をデザインする。

公園を活性化し、コミュニティのニーズを満たす公園プログラムを作成すること

公園・レクリエーションは、健康に良い食べ物を手に入れることから、コミュニティガーデン、屋外でのエクササイズレッスン、青少年プログラムまで、幅広いサービスを提供している。緑地をデザインする際は、周辺のコミュニティのニーズを満たす主要プログラムの作成とサービスに注目しなければならない。



センター・フォー・アクティブデザイン:都市のデザイン・ガイドライン

センター・フォー・アクティブデザインは、包括的リソースガイド/戦略(playbook)を作成した。これは、地元コミュニティの信頼を築き、分断を修復する力としての公共空間を巧みにデザインし、適切に管理を行うためのものである。その報告書の重要な点をいくつか紹介する。

1. コミュニティのつながりを広げる

人の移動方法の選択肢を増やす
歩行者が歩きやすく、歩行者に優しい街路風景を重視する
包括的な歩行者ネットワークをつくる

2. なによりも維持管理を優先する

空き地をきれいにする

3. 自然を取り込む

特有の自然資産を称える
コミュニティガーデンニングを検討する
都市緑地を維持管理する

4. コミュニティのアイデンティティを称える

地元の芸術や芸術家を利用する
多様な地元の文化とつながる
歴史的遺産を保存し、新たな目的に使用する

5. みんなを迎え入れる公共空間にする

道案内・誘導の分かりやすさを重視する
人を迎え入れるエントランス+空間の利用についてポジティブなメッセージで伝えることを重視する

6. 公共空間を快適にする

レジリエンスのあるデザインをし、気候変動に重点的に取り組む:
地元の気候に合わせてデザインする
安全性を重視する:照明により明るくする
座れる場所を作る

7. 活動ができる空間をつくる

インフラが十分に利用されていない場合は改善し、活気ある緑地をつくる
社会的交流ができる空間を提供する
プログラムやイベントの空間スペースを提供する

8. 地元のデモクラシーを育てる

コミュニティ主導型のデザイン・プロセスをサポートする

7. レジリエントな未来づくりーより良い復興(Build Back Better)

より良い復興は、国連防災世界会議が「仙台防災枠組2015-2030」の中で初めて定義されました。「より良い復興」は公式に使われたプログラムであり、復興する際は社会がパンデミックなどの世界的に打撃を与える出来事に対応できるよう、新たに永続的でレジリエントな未来をつくることを指す言葉です。[2020年6月にOECDが、より良い復興のための枠組み:“COVID-19後の持続可能で、レジリエントな回復”をまとめています](#)。すべての都市には、現在、より良い復興を実施し、公園と自然の価値を利用して、すべての人のために公平で、住みやすく、レジリエントなヘルシー・シティをつくるチャンスが巡って来ました。

組織が復興計画を作る場合は、本ガイドラインの原則と前述のOECDの枠組みの主要コンセプトに基づいたより良い復興計画を作成しなければならないのです。

- より良い復興で核となる考え方は、ウェルビーイングつまりあらゆることの向上に注目し、包摂性を向上させ、不平等を是正する、人を中心にした回復が必要であるということである
- 回復策は、地球温暖化ガス排出削減の長期的目標に沿ったものとする
- 気候変動の影響に対するレジリエンスを強化する
- 自然に基づいた解決策により生物多様性の損失を止めて回復に向かわせ、生態系サービスを回復するための、より野心的な政策を組み入れる
- 永続的な行動変化の上に築かれたイノベーションを促進する
- 循環経済の原則をより一層順守することで、サプライチェーンのレジリエンスを向上させる
- 利用しやすさに基づいた移動システムへの移行を促進する



都市の公園および自然システムは、人の身体的、精神的な状態が改善されるばかりでなく社会全体の状況も向上させ、住みやすさを実現する重要な要素と結びついています。都市が公園や自然システムの価値を定義する際、より広い視野で考えることが極めて重要です。公園と自然が、慢性的な健康問題を低減するための価値ある投資先であることを示すことが肝要です。以下に例を挙げます。

不動産からより広範な公園の価値まで様々な例。この公園の価値がすべてのコミュニティに役立ち、その一部が将来にわたって取り除かれないことが重要である。

対症療法ではなく予防策に焦点を当てると、医療費が削減できる。

[アクティブになるための処方箋\(RxTGA\)](#)
[公園処方箋\(Parks Rx\)](#)

自転車専用道により経済を促進させる

自然やグリーンインフラの機能を使えば、自然災害から社会を計画的に守ることができる。

その他の例

[NYCハイライン](#)

[アトランタ・ベルトライン](#)

NRPAー[公園と経済的発展](#)

公園カタログー[公園の経済への効果](#)

オペレーショナル・エクセレンスーNRPA作成

オペレーショナル・エクセレンスは、NRPAにより作成されたものです。公園・レクリエーション専門家を対象とした、ポスト・コロナ期における安全で効果的な段階的回復のための詳細なガイドラインです。“地元の公園・レクリエーション専門家は、コミュニティでCOVID-19の感染の減少が見え始めるなかで、このパンデミックにより影響を受けた都市の公共空間、施設、プログラムの再開に向けた計画を作成しているところです。各エージェンシーは、要約された一連の指標と再開/閉鎖の判断基準への適合など、連邦、州、地方のすべての指針を順守した後に、再開時の公衆衛生と安全性を優先した段階的アプローチを実施しなければなりません。段階的再開の計画は、直ちに通常の運営に戻すためのものではなく、むしろ、コミュニティでの感染をゼロまたは低く維持するための追加的感染拡大防止措置を含んだものでなければならないことを、公園・レクリエーション専門家は理解しなければなりません。

安全な距離に関する勧告、安全な距離がとれない場合のマスクの着用、適切な衛生管理の奨励など、地元の公衆衛生担当者の感染防止指針の順守をどのようにしてサポートするべきかを、各機関は考えなければなりません。計画では、今後の状況変化に応じて調整が可能な追加的感染拡大防止措置とコントロール策を特定し、情報伝達の手順と緊急対応も組み入れなければなりません。”(NRPA、回復の枠組みへの道(NRPA, Path to Recovery Framework))

段階的再開の例については[このリンクページ](#)を参照のこと。



NRPA 回復の枠組みへの道

1. [分野横断的に回復チームをつくること](#)
2. [公衆衛生に不可欠な指標を満たすこと](#)
3. [スペース、施設、プログラムのリスク評価を行うこと](#)
4. [回復の取組みの中心に健康に関する公平性を置くこと](#)
5. [段階的再開計画ー公衆衛生を守るために徐々に通常のオペレーションに戻すこと](#)
6. [一般的に管理されている公園・レクリエーションのスペース、設備、プログラムのための具体的な指針について](#)
7. [情報伝達に関する計画を作成すること](#)
8. [スタッフと市民を守るためのスタッフ研修と対策](#)
9. [清掃と消毒を行うこと](#)
10. [新型コロナウイルス陽性者が確認された時の管理について](#)
11. [財政的な支援を確保すること](#)
12. [緊急計画を評価し、伝えること](#)

世界の回復計画と枠組み

以下の回復計画/リソースのページは、World Urban Parksの会員と非会員から寄せられた素晴らしい資料のほんの一部です。

英 国	ニュージーランド	カナダ、アルバータ州
コロナ禍におけるスコットランドの公園緑地の管理 ーグリーンスペース・スコットランド作成	地方自治体のための警戒レベルによる移行に関する指針 ーニュージーランド政府策定	COVID-19に関する再開指針文書(分野別) ーアルバータ州政府策定 資産の公共利用のためのCOVID-19に関する枠組み ー全国資産委員会 COVID-19流行中の公園訪問の仕方 ーパークス・カナダ
オーストラリア	米 国	
COVIDに対して安全な豪州のためのロードマップ ーオーストラリア政府策定	公園、スポーツ、レクリエーションの計画、準備、対応 ー米国疾病予防管理センター作成	

あなたの地域に回復計画または回復の枠組みがあり、我々との共有を望む場合は、WUP事務局コーディネーター (office@worldurbanparks.org) までE-メールをお送りください。

英国の再開の段階例

段 階	内 容
第1段階	公園の閉鎖*
第2段階	公園の開放、カントリーパークおよび施設の閉鎖
第3段階	都市公園、カントリーパークの開放、一部の施設の開放
第4段階	公園、カントリーパークの開放、多くの施設の開放
第5段階	全て開放

*ロンドンと英国にある大多数の公園は閉鎖することはない。

*全ての段階、警戒レベル、ステージは、地域限定的であり、変更される可能性がある。これらの表は要約である。具体的な詳細については、要約前の全てが記載されている例を参照のこと。

ニュージーランドの警戒レベル例

レベル	説 明
警戒4レベル	リージョナルパークの閉鎖
警戒3レベル	公園の開放、カントリーパークと施設の閉鎖
警戒2レベル	都市公園とカントリーパークの開放、一部の施設の開放
警戒1レベル	公園、カントリーパークの開放、大半の施設の開放

カナダ、アルバータ州のステージ例

ステージ	内 容
第1ステージ	公園と遊び場の制限付き開放。レクリエーション施設の閉鎖。
第2ステージ	公園、レクリエーション施設、キャンプ場の制限付き開放。
第3ステージ	全て開放。

その他資料

インクルーシブなヘルシー・プレイスの枠組み

ー健康の公平性をサポートするインクルーシブなパブリック・プレイスを作るためのツールとして

APA(全米都市計画協会)健康影響評価ツールキット:

健康とウェルビーイングに関するエビデンスに基づく都市デザイン

C40(世界大都市気候先導グループ)の知識集約拠点:都市のためのCOVID-19リソース

ICLEI(持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会) COVID-19リソース

ー過去に録画された、ポスト・コロナの都市レジリエンスに関するオンラインセミナーの一部が視聴できる

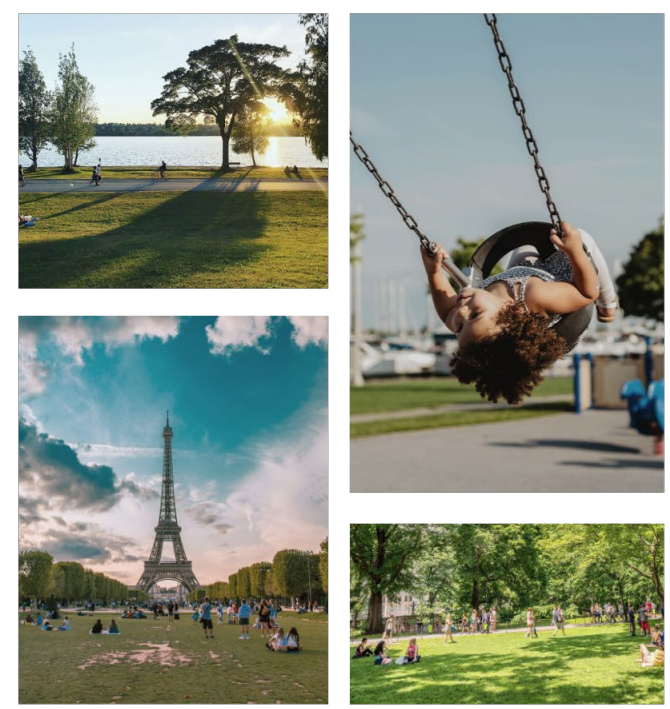
ユーロパーク連盟:COVID-19:緑と健康の回復+ヘルシーパークス・ヘルシーピープル:ヨーロッパ

IUCN(国際自然保護連合): COVID-19 リソース

コロナ禍におけるスコットランドの公園と緑地の管理

あなたも参加しよう

この世界的危機の中で
みんな一緒に強くなろう



COVID-19国際公園専門委員会の パートナーズ



世界都市公園会議 (World Urban Parks) は、国際的な助言と支援を提供し、都市公園、オープンスペースおよびレクリエーションに関する問題、人、活動を結びつけるための組織である。WUP会員とパートナーの経験を、都市公園のリーダーシップ育成の機会、そして急速に都市化が進む都市の大いなる向上の機会と結びつける。

worldurbanparks.org



シティーズ・ウィズ・ネイチャー (CitiesWithNature) は、世界中の都市およびその周辺の自然の価値を認識し、その価値を高めるユニークな取り組みである。都市とそのパートナーが、より持続可能なアーバン・ワールド (都市化された世界) の実現に向けて、共通のコミットメントを実施し、つながり、協力できるような共通のプラットフォームを提供する。

cwn.iclei.org



ザルツブルグ・グローバルセミナー (Salzburg Global Seminar) は、現在および未来のリーダーがより良い世界の構築に挑戦できるように、1947年に設立された独立非営利組織である。我々の長年にわたるプログラムシリーズの目的は、隔たりを埋め、協力を広げ、システムを変えることである。

ザルツブルグ・グローバルは、世代、文化、部門を超えて優れた人材を集めて、新たな発想と行動のインスピレーションを生み、地元の革新者を世界の人材・技術と結びつける。クリエイティブで、公正で、持続可能な変化をつくりだすための永続的なネットワークとパートナーシップを育成する。

salzburgglobal.org



イクレイ-持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会 (ICLEI - Local Governments for Sustainability) は、持続可能な都市開発に取り組む、1,750以上の地方自治体の世界的ネットワークである。100国以上が参加しており、我々は、持続可能性に関する政策に影響を及ぼし、低排出な発展、自然を基盤とした発展、公平な発展、レジリエントな発展、循環型の発展のため地域活動を推進する。我々の会員と専門家チームは、専門家同士の交流、パートナーシップ、能力開発を通して協力し、都市の持続可能性のためのシステム改革を行う。

iclei.org



国立公園都市財団 (National Park City Foundation) 人々と自然がうまくつながる都市。どの子供も若者も屋外で冒険、遊び、学ぶことから恩恵が得られる、野生の動植物が豊かな都市。我々すべてが質の高い緑地を楽しめる都市、きれいな空気を吸うことができる都市、川で楽しく泳げる都市、人、コミュニティ、地球と調和のとれた生活をすべての人が送れる都市。

みんな力を合わせれば、より多くの緑があり、自然にあふれ、公正で健康的な生活環境をつくることができる。みんなの力で、我々の都市をナショナル・パーク・シティにすることができる。さあ、一緒に始めよう。

nationalparkcity.org



全米レクリエーション・公園協会 (The National Recreation and Park Association) (NRPA) は、公園とレクリエーションの力を用いて、強く、レジリエンスのあるヘルシーなコミュニティづくりに取り組む主要な非営利組織である。NRPAは、公園およびレクリエーションの専門家の取組みに投資し、支持することで、公平性、クライメイトレジリエンス (気候変動への備え)、心身の健康およびウェルビーイングのサービスにプラスの変化を生む起爆剤として、このビジョンを推し進める。

nrpa.org



世界保護地域委員会 (World Commission on Protected Areas) は、専門家グループおよびタスクフォース (Specialist Groups and Task Forces) の設立を通して、保護地域を取り巻く一連の課題に関する、知識に基づく政策、勧告、ガイドラインを作成する。我々は、世界の専門家をまとめて、保護地域に関する世界的基準とベスト・プラクティス・ガイドラインなど、プログラムの優先順位についての解決策を模索する。

iucn.org/commissions/world-commission-protected-areas



環境教育コミュニケーション委員会 (The Commission on Education and Communication) (CEC) は、IUCN (国際自然保護連合) およびより広範囲な保全コミュニティにおけるコミュニケーション、学習、知識管理をリードすることで、持続可能な解決策を共同で作成するための変化を促す。

iucn.org/commissions/commission-education-and-communication



#ネイチャーフォーオール (#NatureForAll) は、自然に対する愛を引き出すための世界的なムーブメントである。その中心にあるのは、非常にシンプルな考え方である。すなわち、自然に対する愛を体験し、共有すればするほど、自然保護のための支援と行動が増える、というものである。ベースを増やすことが、#ネイチャーフォーオールの重要な部分である。

natureforall.global